

広島化成、仏同業と内外に新会社

自動車や靴などに使うゴム製品メーカーの広島化成(広島県福山市)は電気自動車(EV)向けの部品に参入した。ゴム大手のハッチンソン(仏・パリ)と共同出資して車の振動や騒音を抑える部品を開発・販売する新会社を国内外に設立。岡山県笠岡市に新工場も建設した。自動車向けを中心にとした工業用品向けの製品の販路拡大につなげる。

広島化成は自動車のドアに装着して雨水やほこり、騒音の侵入を防ぐシリリング材にあたる「ウェザーストリップ」などを手掛け、騒音や振動などを改善しながら車体の軽量化も目指す自動車メーカーのニーズに対応している。この実績を生かし、EVの車体に取り付けて乗り心地を高めるシリリング材に取り組む。開発・販売を担うのが2つの新会社だ。2019年12月設立のHHSJ(東京・港)は資本金は1千万円で、広島化成が60%出資。社長は広島化成の田丸知宏取締役が務める。先行して設立したのがタイのHHS(T「バ

ンコク)。現地のゴム企業も出資し、資本金は1千万バ(約3280万円)。広島化成が30%出資した。

新会社は日本や東南アジアに展開する自動車メーカーに提案していく。関連部品のモジュール化にも取り組み、自動車各社のコスト低減を支援する。特にEVはエンジンの騒音や振動がない分、他の音や揺れが気になりやすく、快適性を高める新技術のニーズは強いという。

国内の自動車販売が低調な中、広島化成は「製品の幅を広げたい」(田丸取締役)と考えていた。その手段として自社開発やM&Aではなく協業を選択。提携先を探す中で、25カ国に展開しながら日本や東南アジアに工場を持たないハッチンソンと出会い「2年間の協議を重ねた末、互いの強みを生かせば両社ともメリットが得られると合意した」。

ハッチンソンとの提携交渉と並行し、新工場の建設にも踏み切った。福山市に隣接する笠岡市の敷地約5千平方メートルに延べ床約3千平方メートルの鉄骨平

振動・騒音軽減 快適性向上にニーズ

屋建てシリリング材工場を建てた。ゴムや樹脂の押し出し機や射出成型機も導入し、19年6月に完成した。投資額は約7億円。子会社のHKK(笠岡市)が運営する。

広島化成では福山市の本社工場が手狭となり、周辺に点在する協力工場への外注が増えて生産効率が悪化していた。この改善を目指して新工場に生産を集約する。同時に物流費の低減も狙う。さらにハッチンソンとの提携に伴う新しい部品の生産にも対応する。

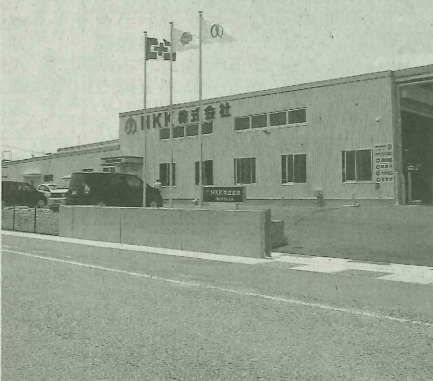
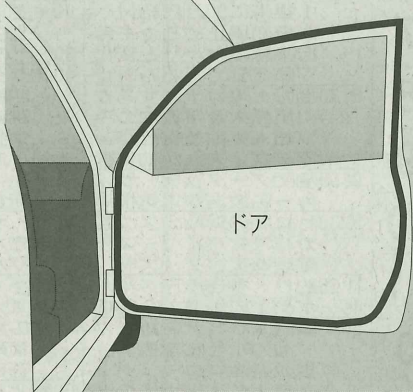
すでに「共同出資会社では新規受注の芽も出てきた」(田丸取締役)という。引き続き「自動車各社の生産動向をいち早くつかみ、新たなニーズに即した製品を生み出してグローバル市場を勝ち取っていく」考えだ。

広島化成は1947年設立。ゴム靴から発展し現在はフローリング材や鉄道線路の緩衝材なども手掛ける。19年12月期の売上高は約140億円。自動車部品を含む工業品事業の売上高を23年12月期に足元の1・5倍の60億円に引き上げる。

(増淵 稔)

ゴム部品「ウェザーストリップ」

ドア



広島化成は子会社HKKの新工場でもEV部品の生産も目指す(岡山県笠岡市)